

航空

2024年3月7日



平野ロジスティクス関西支店 医薬品専用車両を増強



平野ロジスティクスの「Medica号」

平野ロジスティクス関西支店は、医薬品関連物流や、保管と輸送を組み合わせた物流サービスを強化している。医薬品専用車両を順次、増強しているほか、関西空港対岸にあるりんくう国際物流センターで運営している倉庫を拡大した。人材教育にも力を入れており、ソフト・ハードの両面から、多様化する需要に的確かつ柔軟に対応する体制を拡充している。

■ 製薬会社の物流案件も増加傾向

関西支店は医薬品関連物流を強化していることが特色だ。平野ロジスティクスは2022年5月にCEIVファーマを取得。現在、航空会社やフォワーダーからの事業案件とともに、製薬会社からの事業案件も増加傾向にある。製薬会社の工場間の輸送、工場と空港を結ぶ輸送などに至るまで幅広い需要がある。空港間の医薬品輸送案件も増加しているという。

人材教育に特に力を入れると同時に、医薬品専用車両を随時、増車してる。大型空調車の導入などを進めることで、需要に的確かつ柔軟に対応する体制を拡充する。関西支店の西端純一

支店長は「CEIVファーマ認証とともに、西日本初のAEO特定保税運送者であることに裏付けられた高度なセキュリティ・コンプライアンス順守体制も強みだ」と強調。「認証の裏付けとともに、医薬品物流の管理体制、品質の高さなどを実際に確認していただくことで信頼関係を醸成することが、より重要な要素になっていると認識している」と説明する。

温度管理の方法や、実際の温度状況の把握と証明、そのための手法や手順、荷台や機器のクリーニングの方法など、細部に至るまで品質基準を満たすことが求められる。関西支店の小林一博マネージャーは「医薬品物流に係るスタッフ全員が共通の認識や知識、ノウハウを持ち、品質をさらに向上させるために社内研修に力を入れている。特に湿温度の変動が大きいクリティカルコントロールポイント（CCP）となる貨物授受での管理を徹底し、医薬品生産時の品質を維持する安定した輸送を提供する」と話す。医薬品輸送に関する情報を電子化して共有する体制も整えたことも、品質の水平展開に役立っている。サービス・レベル・アグリーメント（SLA）を締結している製薬会社・フォワーダーの監査といった機会も品質をより高度に保つための機会としている。

関西支店に配置されている医薬品専用車は大型車（10トン車）および4トン車。大型車に関しては関西エアポート、関西空港の医薬品専用共同定温庫「KIX-Medica」、定温庫を運用しているCKTSのロゴを施した「Medica号」も運行しており「KIX-Medica」との柔軟な連携も可能だ。製薬会社の強い希望で採用したエアジョルダール搭載の大型専用車両も強みだ。試薬やバイオ医薬品の輸送などに関しては少量の輸送に適した4トン車も活用する。温度管理機能を装備したオリジナル・トレーラーを含む充実した車両で需要に的確に対応する。

■りんくうタウンで施設拡大

関西支店はりんくう国際物流センターにオフィスおよび倉庫を構えている。関西空港では第2国際貨物代理店ビルに保税倉庫（2スパン）を運営している。このほど、りんくう国際物流センターにある倉庫を従来の2スパンから3スパンに拡大した。一部が保税施設となっている。

顧客の出荷指示に基づく適時搬出などの需要に的確に対応している。保税スペースもあるため、フォワーダーによる通関申告も同施設で対応が可能だ。品目は海外向けのシップスパーツで、倉庫拡大は高まる需要に対応したもの。関西空港への搬入とともに他空港搬入のケースもあり、長距離の国内転送サービスも提供している。取扱貨物の輸送モードは航空輸送が中心だが、昨今は海上輸送のケースもあるため、空港だけではなく、港湾への搬入も増えているという。

関西空港の保税倉庫はフォワーダーの輸出入貨物を取り扱っている。輸出貨物は関西空港の航空会社上屋への搬入に加えて他空港向け転送、ラベリングなどの搭載準備業務、ビルドアップ

プに対応。輸入貨物は航空会社からの貨物引き取りやダメージチェック、ブレイクダウン、検品、配送などのサービスを提供している。

Daily Cargoに掲載の記事・写真等の無断転載を禁じます。すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。

© Kaiji Press Co., Ltd. All rights reserved.

No reproduction or republication without written permission.